

氏名	マルティネス真喜子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第101号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	在日外国人の育児 - 乳幼児を持つペルー人母親に焦点 を当てて -

## 論 文 内 容 要 旨

※整理番号	165	(ふりがな) 氏 名	まるていねす まきこ マルティネス 真喜子
修士論文題目	在日外国人の育児—乳幼児を持つペルー人母親に焦点を当てて—		
<p><b>【目的】</b> 滋賀県に在住する乳幼児を持つペルー人母親が、異なる文化、制度を背景に持ち、外国人労働者としての境遇のもとで行う日本での子育てとはどのようなものであるかを明らかにすることを目的とする。</p> <p><b>【方法】</b> 滋賀県在住の乳幼児を持つペルー人母親 7 名を研究対象に 8 ヶ月間のフィールドワークを行い、フィールドノートに記録したデータをもとに民族誌を記述した。フィールドワークは自宅訪問を中心に、医療機関、保健センター、スーパーなどの生活の場で行い、インフォーマルインタビューはすべてスペイン語で行った。</p> <p><b>【結果】</b> データ分析の結果、13 の大カテゴリーと 46 の中カテゴリーでまとめられた。ペルー人母親の子育てを取り巻く人的環境は、近所付き合いやペルー人同士の交流などもほとんどなく、コミュニティよりも家族の絆によりつくり上げられていた。また、ペルー人母親は予防接種や乳幼児健診に行っていたが、母国と日本との保健制度の相違により、戸惑いが生じていることが明らかとなった。さらに、雇用状況の不安定さ、夫の就労形態が子供の生活パターンや、子育て生活に影響を及ぼしていた。</p> <p><b>【考察】</b> 得られた結果を文化・制度・境遇の 3 つの視点で考察すると、文化の視点では、ペルー人母親の持つ「外部のものを容易に受け入れない」人間関係形成と「繋がりが強固である」家族観の文化的要素が日本における子育てを取り巻く人的環境に影響を及ぼしていると考えられた。制度の視点では、世界のスタンダードからして特殊である日本の予防接種制度のあり方、母国と異なる内容の日本の乳幼児健診のあり方などの母国と日本のヘルスシステムの相違や、日本の保健医療従事者の外国人母子へ配慮の欠如がペルー人母親に戸惑いを生じさせていると考えられた。また、境遇の視点において、ペルー人母親の外国人労働者としての境遇においては、特に雇用に関する法令の整備が遅れているため、外国人労働者は雇用差別から守られている保障はないという雇用問題が存在し、これは健康問題、教育問題など子育て生活全般の問題へと発展する可能性があることが示唆された。</p> <p><b>【総括】</b> 看護領域において、地域で暮らす外国人母子という異文化の視点から日本の母子保健のあり方や日本の子育て環境のあり方を見直す必要性が示唆された。今後ますます世界がグローバル化していく中で、日本の看護領域においても異文化との接触の機会は増えてゆくものと思われ、今後文化を越えた人間としての結びつきを重要視した、外国人母子に関わる調査研究を発展させていくことが重要である。その際には、本研究で用いた文化・制度・境遇の 3 つの視点を含む多角的な視点でのフィールド調査・研究が必要であると考えられる。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。